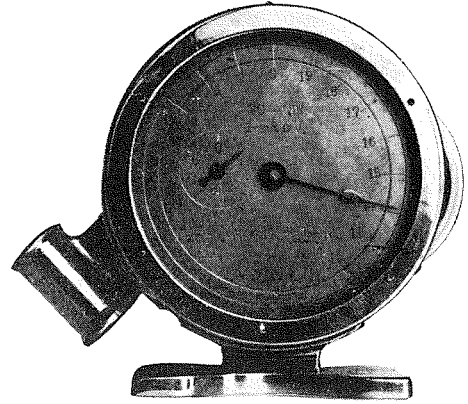


基礎工事杭打施工を 正確ならしむる 杭沈下測定表示機

基礎工事の確實を期する事は何より第一である、唯漫然と杭を打込むばかりのものではない、種々な研究的態度を以て施工に臨まねばならぬが、従來此點に就て我が工事界は餘りに無關心であつた。

近頃東京市建築課の學校建設係で考案して日本工業合資會社が製作發賣せる時計型の杭沈下自働表示機は基礎杭打の施工を完全ならしむる一方法である。

之は寫眞に示す様に直径10センチ程の時計型の機械で、左下方に凸出せるブラケットに約4尺乃至5尺の鐵棒を差込みてハンドルを握つて時計型の機械を



新考案の杭沈下測定表示機

基礎杭の横腹に押付けるこ、右側に少しく凸出せる齒狀輪が杭に接着する。

基礎杭が打込まれるに従つて接着してをる齒狀輪が俱に廻轉するから、實際の杭沈下寸法は指針の移動に依り正確に表示されるのである、指針は最少2ミリから100センチメー

トルまで累計出来る様になつてをる。又五回に2センチの沈下があつたをすれば一回の打込みで平均4ミリの沈下を云ふわけである。之は頗る正確に表示される。

要するに従來は杭打込の最後の沈下を見る方法が不完全であつた爲め、非常な手数を危険を侵してをつたが、本機の出現に依り正確に簡易に杭の沈下を視る事が出来る様になつた。

基礎松杭なきは水や泥に汚れてをり之に時計型の機械を押付けてをるこ杭打機の非常な打撃を傳へられるから機械も泥水で汚され震動も甚しいのであるが、此等の荒い使用に耐へる丈の構造は勿論完全に注意されてをる。(本機使用希望者は工事畫報社工事研究會へ紹介あれば詳細回答します)

打込中の基礎杭に測定機を使用の景

